

駒ヶ岳

○ 南西登山道に沿う 比高変化

前回の1998年5月から8年ぶりに駒ヶ岳南西登山道沿う水準路線(図1)のうち旧路線の再測量を2006年9月26~28日にかけて北海道大学地震火山研究センターと気象庁札幌管区气象台で実施した。

1998年5月から2006年9月の間の比高変化(図2)は、昭和4年火口から4km以遠にある沖積層上の水準点で大きな変動を示す。これらの水準点では1993年の北海道南西沖地震の際にも大きな局所変動が現れ(図3)。今回の変動も2003年の十勝沖地震に伴う局所変動と考えられる。

4 km以内では山体中心に向かう沈降傾向があるように見えるが、沈降量が小さく、この傾向は有意とは言えない。山体中心に近い水準点では1996年3月から1998年にかけて顕著な沈降が続いていたが、1998年11月、2000年9~11月に小噴火に変動の有無は分からないが、この沈降傾向は1998年以降、停止したように見える。

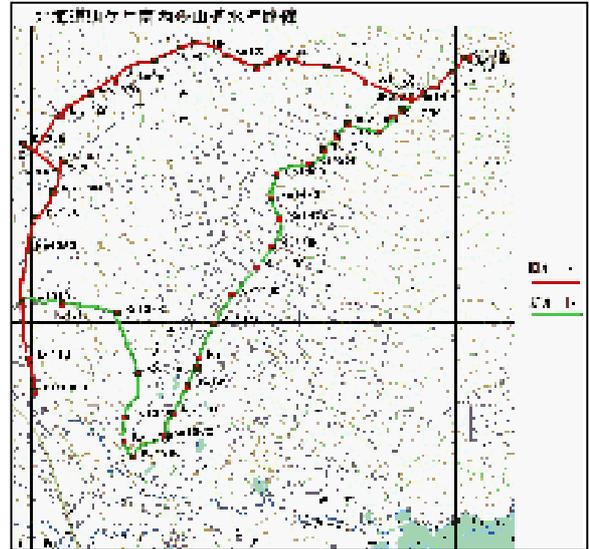


図1. 北海道駒ヶ岳南西登山道に沿う水準路線

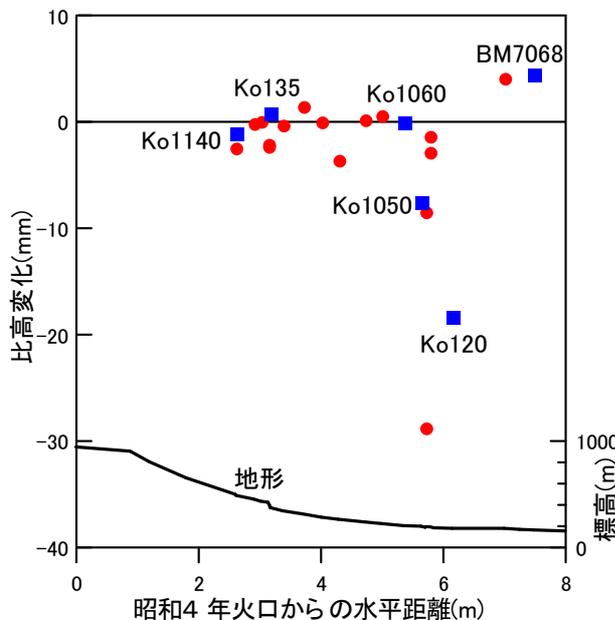


図2. 1998年11月から2006年9月の間の昭和4年火口からの水平距離に対する比高変化。基準点はKo1060、青四角は図に示した水準点である。

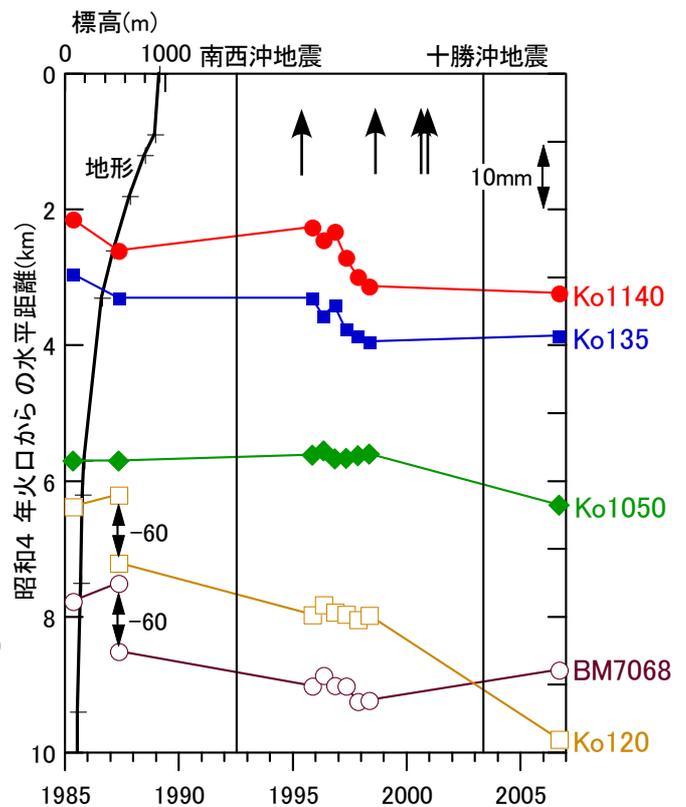


図3. 主な水準点における比高の経年変化。基準点はKo1060、矢印は小噴火を示す。1993年の南西沖地震に伴い大きな局所変動を示したBM7068とKo120は-60mmのオフセットを加えている。